

【私のラパコレ歴】

1990.9 初のラパコレ3例(水戸済生会病院)

1990.12 新潟外科集談会で発表. Cidars - Sainai 病院見学(LA). Dr. Berci, Dr. E. Phillippes と出会う.

1991.4 県内初(県立津川病院), 大学初(大学附属病院)のラパコレ

第1回腹腔鏡下胆嚢摘出術同好会(清水, 斉藤, 川合, 中村)

1991.10 総胆管結石手術, 横隔膜ヘルニア手術(県立新発田病院), 保険点数上の混乱

1992.4 永井式吊上げ法の導入(柿崎病院)

1993.5 ヨーロッパ研究外科学会(ESSR)で発表. P. Mouret 先生を Lyon に訪ねる.

1994.6 Mouret 先生が来日(第3回世界内視鏡外科学会, 京都), 新潟で特別講演.

1994.11 Chikago 医科大学でのシンポジウムに参加(Dr. Buess, Dr. Ko らと)

【ラパコレを通じて学んだこと】

- ・外国語の重要性
- ・世界の一流の外科医たちとの交流
- ・「いい」と思ったらやる!
- ・上司たるものは・・・

【Mouret 先生のスライドから】—腹腔鏡手術の先駆者たち—

- ・観察→処置→手術とわれ知らず進んだ
- ・産婦人科と消化器で同時進行
産婦人科; Raoul Palmer, H. Manhes, M.A. Bruhat, K. Semm (虫垂切除 1973)
消化器界; 消化器内科医, Muhe 1985, P. Mouret (腹腔鏡下診断 1968 腸閉塞解除 1972 虫垂切除 1983 胆嚢摘出 1987)

【Mouret 先生のスライドから】—孤独の効用—

- ・助けもない代わりに邪魔もない
- ・思考の自由
- ・ラパロスコピー診断から多くを学んだ

1968年から87年にかけて6,000件の診断が行われた

開腹手術は人体への侵害行為との認識を得た

ラパロスコピーは相対的に無害との認識を得た

腹膜侵襲=生体侵襲との気持ちを強めた

・開腹手術の操作を徐々にラパロスコピーに取り入れた(ラパロスコピー補助下の開腹手術という考え方)

しかし孤独はこのようなラパロスコピー観を人々に伝える機会を与えなかった

【Mouret 先生のスライドから】—ラパロスコピーの世界的普及—

- ・大いに満足している
- ・同時に次のことが残念

最先端技術の追求に熱心で, 水平的普及(基礎技術の習得や新興国への普及)が不十分 「何でもラパロ」ラパロ原理主義の台頭

Technique の向上より technology の開発に熱心

4 肝門部胆管癌の2切除例

岡本 春彦・井上 真・川原聖佳子
小野 一之・田宮 洋一・坂本 薫*
田中 亮*
県立吉田病院外科
新潟大学大学院消化器・一般外科学
分野*

〔症例1〕74歳, 男性. 1998年6月早期胃癌(pM)で胃亜全摘術, S状結腸癌(pSM)でS状結腸切除術施行. 2001年4月S4, 8肝転移に対し中央2区域切除術施行. 2007年6月, 肝門部胆管癌で手術を行った. 術前ビリルビン値が9前後でのICGK値は0.06, 5前後となっても0.096程度にしか改善しなかったが, 胆管切除+肝後区域切除術を施行した. 門脈左枝を一部合併切除し, B1, 2, 3の分枝と空腸を吻合する胆道再建を行った.

〔症例2〕71歳, 男性. 後区域枝が左胆管から分岐する症例の肝門部胆管癌に対して胆管切除+左葉切除術を施行した. 前区域3本の胆管分枝および後区域枝と空腸を吻合した. いずれも診断・治療が難しい症例であったが, 根治切除術を施行することが可能であったので報告する.